

# ココタウンデイサービスセンター

症 例 概 要 利用者：90代 女性 要介護3

利用期間：2019年8月～2025年4月

経 過：以前はご主人と商売をしており40年前に移住されてから暫くはパートで働いていましたが、2012年に夫が亡くなり長男と二人暮らしの生活が始まりました。2017年末に腰椎圧迫骨折が発症し、膝関節症の痛みも重なり一人での外出が難しくなったことをきっかけにデイサービスの利用が開始。通われてから徐々に足腰の痛みも軽減されてきたが、2度の入院をきっかけに回復に向かっていた歩行機能が悪化し車椅子での移動となってしまいました。デイサービスでも臥床時間が長くなり、何事にも消極的になっているご様子でしたが、元気に100歳を迎えられるよう職員の声掛けや歩行訓練を前向きに実施する事で笑顔が見られるようになりレクリエーションや他者交流など前向きに参加され、活き活きされるようになりました。

## 内 容

以前はお勤めから家事、庭いじりやメダカの飼育が趣味でご近所との交流も良好でしたが、ご主人のご逝去からの転居や腰椎圧迫骨折、膝関節症の痛みも重なり一人での外出が難しくなり、ご自宅で過ごす日々が多くなってしまった為、他者交流を目的とし2回/週のデイサービスの利用が開始となりました。

利用当初は元々物静かな方のため、他ご利用者さんと親しくお話する様子はあまり見られませんでした。慣れてくると気の合う仲間との談笑やレクリエーションに積極的に参加し、楽しまれる様子が見られるようになりました。徐々に足腰の痛みも少しずつ良くなり歩行器でデイサービスの中を一人で歩けるようになっていました。

2023年4月と2024年10月に2度入院されたことで、回復に向かっていた歩行機能が悪化してしまい、退院後は車椅子を使用しての移動となってしまいました。身体機能の低下に伴い精神的な落ち込みもみられ退院後のデイサービス利用時についてもベッドで臥床されている時間が多くなってしまいました。

職員にて元気に100歳を迎えてもらいたい気持ちをご本人にお伝えし歩行練習の声掛けをすると最初は「足が痛いから、私の足はもう駄目ね」などと消極的な発言が聞かれましたが、粘り強く声掛けし実施すると、徐々に歩行距離も伸び最初は嫌がっていた歩行訓練の声掛けにも拒否されることなく前向きに実施して下さるようになりました。目標を持つことで日々のレクリエーションに対しての向き合い方や表情も変わってきました。

現在、4回/週のご利用となり100歳を目前に職員と歩行訓練を継続し、短い距離であれば車椅子を

使用しなくても移動できるようになりました。歩行機能回復に伴い臥床時間も少なくなり運動や工作、歌唱レク等についても積極的に参加して下さります。来年100歳になられても笑顔で輝ける日々を過ごして頂けるよう職員一丸となって努めて参ります。

**【関わった職種】**

介護職員：歩行訓練と前向きな声掛けを実施

看護職員：下肢筋力の状態確認と歩行訓練状況の評価

居宅CM：ADL評価における下肢筋力の維持・強化の目標設定と現場との相談

家族：ADL低下の防止。これからも長く自宅で生活できるように自宅でのトイレや掴まり歩行、起き上がりなど継続してご自身で行って頂くよう声掛けと一部支援